

# 『リーディングパワー基本編・発展編』のすすめ

## — シャーロック・ホームズ作品からの活用 —

犬飼 建治

### 1 はじめに

英語読解(リーディング)の基礎は、英文法と構文理解にあることは、『CHART NETWORK』(No.45)で紹介したとおりである。今回は、『リーディングパワー 基本編』(和田稔監修, JEC 英語教育研究会, 以下「基本編」と略す)および本年度のリーディングの授業で使用している『リーディングパワー 発展編』(同監修, 同研究会, 以下「発展編」と略す)で習得したリーディング・スキルを, 他のリーディング教材で試してみたいと思い, 筆者が愛読するシャーロック・ホームズ作品 (Stories of Sherlock Holmes) から練習問題を作成したので, これを紹介してみたい。

### 2 両書の特徴

その前に, 『リーディングパワー基本編/発展編』を紹介・推薦したい。両書は, ともに英文読解に必要な7つのリーディング・スキルを取り上げている。中でも, 「英語の語順のまま, 『意味のまとまり』(sense group) ごとに読んで, 意味をつかむ技術を身につけること」を目的とし, 英文にスラッシュ(/)を入れて, 区切りごとに読み進める, いわゆるフレーズ・リーディングを重要視している。生徒たちは長い英文に出会うと, 主語はどれか, 動詞はどこか, どこから訳をすればいいのかと, 迷ってしまい, ちんぷんかんぷんな訳出をする。頭の中が真っ白になってしまうのである。こうした思考状態から開放してくれる技法が, 両書が勧めるフレーズ・リーディングである。

本書で最も基本的かつ重要なフレーズ・リーディングのポイントは, 語順を変えずに, 英文のなかで意味の切れ目と思われるところに/を入れ, /ごとに意味を取り, 意味をつなぎ合わせて, 最後に英文全体の意味をまとめ上げることである。/を入れるところは, おおよそ「①接続詞の前, コンマ(,),

②長い主語・目的語・補語の前後, ③長い前置詞句の前, ④to不定詞の前, ⑤比較級thanの前, ⑥thatの前, ⑦関係詞の前」(「基本編」5頁・6頁, 「発展編」4頁)にあると説明される。なお両書では, 「フレーズ・リーディング」の他に, 「文のつながり」, 「予測・推測」, 「パラグラフ・リーディング」, 「スキミング」, 「スキヤニング」なども, 活用すべき具体的なリーディング・スキルとして, ていねいに解説されている。

### 3 実例文

基本的には, もっぱら/を入れる練習に集中させることにし, 2で提示したフレーズ・リーディングを使った実例をあげる。紙幅の関係上, 『リーディングパワー』で取り上げているその他のスキルはここでは扱わない。なお, ③の「長い前置詞句の前」については, もう少し幅を広げて, 短い前置詞句や前置詞句相当のものにも/を入れる(この場合, /は句の後)ことにし, また文法項目, 熟語, 挿入句(網掛け部分)などは\*で説明した。

[EX. 1]

In the year 1878 ③/ I took my degree ③/ of Doctor of Medicine ③/ of the University of London, ①/ and proceeded to Netley ④/ to go through the course prescribed for surgeons ③/ in the army. Having completed my studies there, ①/ I was duly attached ③/ to the Fifth Northumberland Fusiliers ③/ as Assistant Surgeon. The regiment was stationed ③/ in India ③/ at the time, ①/ and before I could join it, ③/ the second Afgan world war ②/ had broken out. (A Study in Scarlet p.9)

1887年にロンドン大学で医学博士の学位をとった私は, 軍医としての必須科目を修めるため, 引き続きネットリの陸軍病院へと進んだ。そしてそこで修

業を終えてから、順当に第五ノーザンバランド・フジリーヤ連隊付の軍医補に任命されたのである。当時連隊はインドに駐在中であったが、私の赴任前にかの第二次アフガン戦争が勃発してしまった。

\* prescribed = 過去分詞の形容詞的用法

\* Having completed my studies there, ...  
= 完了形 of 分詞構文

[EX. 2]

That very evening ③ / I moved my things round ③ / from the hotel, ① / and on the following morning ③ / Sherlock Holmes followed me ③ / with several boxes and portmanteaux. For a day or two ③ / we were busily employed ③ / in unpacking and laying out our property ③ / to the best advantage. (ibid. p.17)

私はその晩のうちにホテルから荷物をはこんだ。ホームズは続いて翌朝、数個の箱と旅行カバンを持ち込んだ。そして一両日は荷物を解いて、それを都合よく配置するのに忙殺された。

\* in unpacking and laying out ...

= in ~ ing and ~ ing の構文に注意

\* to the best advantage (都合のよいうに)  
= 熟語

[EX. 3]

I consider ⑥ / that a man's brain originally is like a little empty attic, ① / and you have to stock it ③ / with such furniture as you choose. A fool takes in ② / all the lumber ③ / of every sort ⑦ / that he comes across, ① / so that the knowledge ⑦ / which might be useful to him ② / gets crowded out, ① / or at best ② / is jumbled up ③ / with a lot of other things, ① / so that he has a difficulty ③ / in laying his hands upon it... (ibid. p.19)

「僕は思うに、人間の頭脳というものは、もともと小さな空っぽの屋根裏部屋のようなもので、そこへ自分の勝手に選んだ家具を入れとくべきなんだ。ところが愚かな者は、手当たりしだいに、これにいろんながらくたまで取り込むものだから、役に立つ肝心な知識はみんなはみだしてしまうか、はみださないまでも、他のものと混ざり合って、いざというときにちょっととりだしにくくなってしまふ。…」

\* such furniture as ... = such ~ as ... の構文

\* ⑦ / that he comes across, = come across (偶然に出会う) = 熟語

\* he has a difficulty ③ / in = have a difficulty in ~ ing の表現

[EX. 4]

During the first week or so ③ / we had no callers, ① / and I had begun to think ⑥ / that my companion was as friendless a man as I was myself. Presently, however, ① / I found ⑥ / that he had many acquaintances, ① / and those ③ / in the most different classes ③ / of society. There was ② / one little sallow, rat-faced, dark-eyed fellow, ⑦ / who was introduced to me ③ / as Mr Lestrade, ① / and who came ③ / three or four times ① / in a single week. (ibid. p.21)

いっしょになって最初の一週間ばかり、お客がひとりもなかったの、私はホームズもまた私同様に友達の少ない男なのだろうときめかけていた。だがまもなく、それは思い違いで、彼には多くの知り合いが、ことに広く社会のあらゆる方面に知り合いのあることがわかった。そのなかの一人で、血色の少し悪い、ねずみのような顔をした黒目のレストレードという男は、たった一週間のうちに三、四回もやってきた。

\* ... my companion was as friendless a man as I was myself. = as + 形容詞 + a + 名詞の表現

\* ... ⑦ / who was introduced to me ③ / as Mr Lestrade, ① / and who ... = ..., who ... and who ... の構文に注意

[EX. 5]

It was upon the 4th of March, ③ / as I have good reason to remember, ⑥ / that I rose somewhat earlier ⑤ / than usual, ① / and found ⑥ / that Sherlock Holmes had not yet finished his breakfast. The landlady had become so accustomed to my late habits ⑥ / that my place had not been laid ① / nor my coffee prepared. (ibid. p.22)

すこしわけがあって覚えているのだが、三月の四日であった。いつもよりいっ早く早起してみると、ホームズはまだ朝食をすませていなかった。宿の主婦は私の寝坊には慣れているので、私の分は食事の用意もできていなければ、コーヒーもできていな

かった。

\* ③ / as I have good reason to remember,  
= 挿入句

\* so accustomed to my late habits that ...  
= ... so ~ that ... の表現

\* not ... nor ... = neither ... nor ...

## 参考文献

延原謙 訳『緋色の研究』新潮文庫 1991

(兵庫県立芦屋高等学校教諭)

## 4 作品の紹介と生徒の反応

実例文は、長編『緋色の研究』(*A Study in Scarlet*, 1887)の前編(Part 1)に取められている 'Mr Sherlock Holmes' および 'The Science of Deduction' のところから引用した。ホームズとワトソンが初めて出会い、またホームズがワトソンに「推理学」について語る有名な章である。

さて、『リーディングパワー』を現在使っているが、徐々にではあるが、生徒のリーディング力は、確かに身につけてきているように思われる。長文も／を入れれば、いくつかの短いものになり、各部分ごとに気持ちを集中させて意味を取らせる。後はうまくまとめ上げれば出来あがりである。このスキルを身につければ英語は何も怖くない。なるほど、修得に多少の時間はかかるかもしれないが、決して難しい作業ではない。このドリルを中学の英語教科書でするのもよいと思われる。単語や熟語は、英語の読書量が増えれば、自然と身につくものである。これまでは、英語が読めない、英語が訳せない。その原因は単語を知らない、熟語を知らないからだ、生徒たちは誤解する。教師も同じように考える。だから、無味乾燥な単語・熟語集を覚えるのである。しかしながら、その学習では、点ばかりを覚えて、線にはならないのである。単語や熟語は英語を読む過程で覚えるものである。単語集などは後の整理で使うものであると思う。“リーディング・パワー”が身につけば、本来の英語学習ができると信じている。

## 引用献文

『リーディングパワー 基本編』和田稔監修, JEC  
英語教育研究会

『リーディングパワー 発展編』和田稔監修, JEC  
英語教育研究会

Doyle, Sir Arthur Conan : *A Study in Scarlet*  
Penguin Books 1981